



NETWORKING NEWS LETTER



C O N T E N T S

[特集] ネットワークミーティング

思い、人。
オーガニックで集まろう！
……2014オーガニックショーを考えた

[トピック&ニュース]

3.11見えない風景
小原一真写真展 開催のご案内

オーガニックショーに集まろう！
「東京ピクニック2013 in AUTUMN」
にて開催をPR！

[視点] その6
未来のオーガニックを志向しよう

[INFORMATION]
事務局からのお知らせ
●11月の活動予定
●活動短報

11
DECEMBER
2013 月号



オーガニックな
ヒト・コト・モノに
出会う日



つくる。つながる。
つたえる！

オーガニックショーに集まろう！ …2014年2月22(土) / 中野サンプラザ(東京)

オーガニックは、原産に象徴される大量生産・大量流通・大量消費・大量廃棄社会へのオルタナティブとしてスタートしました。オーガニックには、基準や生産様式だけではない、みんなで共有していきたい本来の価値があるはずです。生産者・消費者・流通販売者が一緒に考え、繋がって、さらなる一歩を踏み出したい。それが「オーガニックショー ポラン広場東京 2014」です。

オーガニックショー ポラン広場東京 2014

オーガニックな"ヒト・コト・モノ"が勢揃い
"食べる・知る・見る・繋がる"
がギュッと詰まった1日

直売市場・ファーマーズガーデン、全国縦断リレートーク、トークショー、講演会、ドキュメンタリー映画上映、生産・消費・販売者が一つのテーブルで対話するダイアログ、ワークショップ等々が、中野サンプラザ内の5つの会場と、隣接する中野セントラルパーク(予定)にも広がって、縦横に展開していきます

●イベント概要●

日時 2014年2月22日(土)11時~17時
場所 中野サンプラザ8F 研修室ほか
東京都中野区中野4-1-1
JR中央線・地下鉄東西線中野北口徒歩1分
入場 無料 (一部有料企画あり)
主催 NPO法人ポラン広場東京
問合 ポラン広場東京事務局
TEL0428-22-6821
E-mail office@polano.org
詳細情報 www.polano.org/



「東京ピクニック2013 in AUTUMN」
にて開催をPR！

ポラン広場東京では、10月5日(土)、6日(日)の2日間、東京の中野セントラルパークで開催された野外イベント「東京ピクニック2013 in AUTUMN」にブース出店。野菜や加工食品の販売と共に、オーガニックショー2014の開催をPRしました。





【特集】ネットワークミーティング

思い、人。オーガニックで集まろう！ ……2014オーガニックショーを考えた

■「顔の見える関係」を再確認しよう

【神足】(ポラン広場東京) 昨今、オーガニックの農業をやってきた農家が健康を害したり、オーガニックが備えていた根源的な何かが崩れてしまっているような思いを抱えています。立派な取り組みもあるのですが、30年、40年を経て、資本主義体制の中で社会が崩壊していっているような現代で、オーガニックにどんな意義を見出せるか。皆さんはどう考えているか。このような視点から、今度のオーガニックショーの全体像を炙り出せるのではないかと考えています。

「私たちは今あらためて「顔の見える関係」を語ってもいいのではないのでしょうか。金銭を仲介させたつながりの中で、私たちはあえて「顔の見える関係」を問い直してみよう。そんな作業の中から、オーガニックの本来の意味を見出すことができないかと考えています」 …「視点」より

これまでポラン広場は「顔の見える関係」という言葉を使いませんでした。我々はビジネスとしてそれを行う、というふうにとスタートしたんです。ところが今私は、その結果について、疑っているんです。

生産者の皆さんは、自分がつくったものを食べている人たちに、どれくらい関心をもっているだろうか？ 売れる売れないという言葉はよく聞くようになったんですが、つまり、私たちの取り組みは、顔の見える関係になっているのか？ 私たちは、顔が見える関係をつくろうとしているんでしょうか。

【狩野】(あひるの家) かつては、有機の生産者に会った分だけ、品揃えが増えていったんです。出会いの体験を、お客さんと、店のスタッフと共有したかった。これこそつながり。関係のある商売の仕方をしてきたんだと思います。

その一方で、(認証もないので)統一した情報など全然なかった。そこから、沖縄から北海道まで、安定出荷ができるようになるなんて、当時は夢だったようなことも実

現した。ところが、そうなることで、「つながり」は希薄になっていった。「つながり」なんかなかった、仕事ができるようになったんです。同時に、大手が情報販売、情報戦を戦う素地が整っていった。

でもそこは自分たちが想いを込めていくしかない。有機のじゃがいもの中に、自分たちは有機という意味合いをどれだけ付与できるか。みんなに、お客さんに積極的に話して、正しいこと、より楽しいことを発想しよう。今もそういう場があることを確認したいし、そういう意味では、時代がぐるっとまわって、またオーガニックショーに巡ってきたんだと思う。



■人、思い。作り手も楽しい

……売り買いを超えた交流を目指そう！

【前田】(チームオースリー) 今の時代、JAS有機、トレーサビリティというような、情報化社会になってきているからこそ、「顔の見える関係」が必要になってきているのではないのでしょうか。今のオーガニックに欠けているのは人というかハートというか心というか思いだと思うんです。作り手が、伝えていくことが必要なんじゃないのでしょうか。

ポランのオーガニックショーで生産者消費者が、自分たちを伝える場として、そこで何をするかということ、作り手の自分たちで考えてみたい。生産者、製造者も大きな意味ではお客さんなんだから、集まっている我々も、ああそうだったんだと思えるような場作りができればいいんじゃないか。

物販も、もちろんいいんですけど、そ

9月21日、NP0法人ポラン広場東京のネットワークミーティングが開催されました。テーマは「オーガニックショーポラン広場東京2014に向けて」。代表理事からの話題提供を軸に、来春の開催が予定されているこのイベントをめぐって、生産製造者を交えて約3時間、自由な意見交換がなされました。

れがもう当たり前で。限られた空間なり時間の中で、自分たちはどういことをやろうかと考える。ウチであればとにかくワークショップと絡めて、来場される皆さんが、何かをつくれるようなコーナーやろうとか、自分たちのモノづくりをとことん語る場をつくろうとか。生産製造者たちもブースを見て回っておもしろい。そんなイベントなら、スタッフが参加しても有意義な場になるのかなと。

【太田】(太田酢店) 私の地区には田舎なのに祭りがなかったんで、ゼロから祭りをつくったんですが、やる気がないと、同じことをやっていると楽だとなる。主体性ある人が必要ですね。

【狩野】オーガニック食品は商品なんですよね。でも、今回やりたいことは「WHAT'S ORGANIC?」(オーガニックって何?)なわけでしょう？ みんなが考える「WHAT'S ORGANIC?」は何ですかと、それぞれの出店者が主体性をもって、それぞれの力点で表現する。すると様々な顔のオーガニックが出てくるよね。オーガニックをもう一度出発させるには、いいステップになるんじゃないかなと思います。

■そして、ネットワーキング！

【神足】大事なのは出店される方の参加のされ方なんです。皆さんそれぞれに社会活動されている。それをポラン広場で一度表現してください、と思うわけです。ポランの特長はそれをネットワーキングしているところなのだから。タテ割りではなくて、農家とかお米、果物、畜産、酪農、水産も加工屋さんもいて、同時代をどういうふうと考えているかという話ができるということ。それができるのも、オーガニックだからこそ、なのですから。

【佐藤】(ポラン広場東京) 「手づくり」とか「見る」などのキーワードで、おそらくは今日話し合ったことから、タテ割りではないテーマやキーワードも生まれて、「私はこういうことをそここでやりたい」といった参加申し込みを募りたいんです。



【特集】ネットワークミーティング

つくり手が、自分たちを伝え、
自分たちも学ぶ、楽しむ…

オーガニックは、いまだ
実現到達していないんだ



子どもができるワークショップも、生産製造者会員から提案をして、子どもたちが集まり、その間にお父さんお母さんがブースを回れるというような。

もうひとつは、企画モノというか、講演会なのかトークショーなのか、ドキュメンタリー映画の上映なのか、あらかじめ決めるつもりはないけれど、できるだけ多くの来場者が共感できるような企画を考えたいと思っています。

■手づくりを復権させよう
……つくり手からの発信を考える

【神足】今、消費の段階で忘れられているのは、「手づくり」なのではないでしょうか。やはり食事って手づくりなわけですよ。そういうものが離れていく中では、どんなに良いものをつくっても、量をつくっても、利用されないワケだね。

カンボジアの活動内容を展示しつつ、

【前田】カンボジアの地雷原の綿を使って、現地の人たちが栽培した綿を手紡ぎした糸でミサンガをつくるというワークショップをやっていて、小学生から大人まで楽しめるんです。手づくりですね。オーガニックコットンの販売とは直接には結びつかないけれど、そこで手づくりとか、コットンを身近に触れてもらうことができと思っています。糸紡ぎのワークショップでも、綿打ちしたものを触らせてあげると、見たこともないから喜ぶ、そんなのを見ていて

楽しいし、僕らも元気をもらえるんです。笑顔。そういうのっていいなと。

【山岡】(ハート)震災以降、ライフスタイルも変わってきています。百貨店もオーガニックコットンに目を向け始めています。

【狩野】つくるということについてのワークショップって、食べること、生活雑貨、せっけんづくりも含めて、できるよね。つくり手がいて実際に作って試食してみる、子どもたちも参加して、手づくりする。喜ぶと思う。

【井上】(食通・平飼卵)おいしい卵について生産者が語るとしたら、それは、生なんです。明らかです。おいしさはほんとうに我々がわかっていますし。卵かけご飯、炊きたての釜で炊いたごはんなんです。あれば大評判でした。そういうことができれば、というのはいつもあります。

【平井】(湘南ぴゅあ・食肉)自分たちが来場者だとしたら、各生産製造者さんの新しい取り組み、打開策や展望があったらききたいと思うんです。「TPPは反対です。でも僕らはこういうふうな取り組みをしています」というような。すごく励みになります。あの人たちががんばってるんだから僕らもがんばろう！となる。

【前田】試食や手づくりのワークショップでも、自分たちのできることを表現すればいいだけだからと、ハードルを高く難しく考えなくてもいいよ！ということを投稿かければ良いと思うんですよね。

【大島】(じんじん)全員が主人公ということだね。アンケートなどで共通点も見え、そこからテーマも見えてくる。



左上から、神足義博(代表理事)／山岡弘章(ハート)／太田実(太田酢店)／(中)佐藤昌紀(事務局長)／前田剛(チームオースリー)／(下)森秀介(げんきタウン)



■情報では伝わらないことが大切

【森】(げんきタウン・お菓子)JAS有機ができるまでのアツさ。それができあがってからシステムに変わった。施行直後の2001、2002年はそれまで有機に情熱を持ってきた土作りをしてきた人が申請してきたんです。

ところが2010年ぐらいからみんな辞めだしたんです。かわりに当初は入ってこなかった、売上何十億クラスの、有機はようわからんけど売上はあります、みたいなところが増えだした。システムさえクリアすればいいわけですから。そういうところが有機が面白くなってきたことと関係があるような。

情熱とか人とかが、だんだん希薄になっている。それをもう1回呼び戻せるかどうか。呼び戻せるだけのニーズがあるかどうか。なぜかという、情報はネットでいくらでも見れる。あのネットの情報を越える情報をブースで出せるのかどうか。

【神足】情報はいっぱいあるけれど、情報では得られないものがあるかもしれない。オーガニックショーに来た人に、そういうものに気づいて欲しい。

オーガニックには、それだけのものが内在しています。それを、消費者の皆さん、生産製造流通販売に携わる方々も含めて、普段の暮らしに持ち帰れば、明日からの糧になる。そういうふうな取り組みでありたいんです。オーガニック食品があふれてる、情熱が希薄になっているというけれど、オーガニックは、いまだ実現到達していないんです。



(左上)狩野強(あひるの家)／(左下)平井三郎(湘南ぴゅあ)／井上敏夫(食通)／大嶋仁(じんじん)



3.11 見えない風景

小原一真写真展 開催のご案内

想像力の及ばない風景、
時間。そこに生きる人々
は何を思うのか

【会期中の催し】

- 小原一真取材報告会
日時 11月16日(土)15:00～
参加費自由(取材サポート賛
同金として)
3.11東日本大震災被災地と原
発作業員、収束現場および放
射能汚染地域のレポートをス
ライド写真とともに報告
- 5弦ウッドベースとピアノ
によるライブ「FUKUSHIMA」
日時 11月8日(金)17:00開演
水野俊介(WB)、室坂京子(P)
参加費 2,000円(1ドリンク付)

津波と原発事故を考える時、僕
が抛り所にしてきた風景の中に
は、常に人がいた。瓦礫の中にも、
瓦礫が撤去され、更地になった
大地の中にも。立ち入り禁止区
域の外にも、その中にも。そして
福島第一原発の中にも。約3年間
に渡って出会った人たちは、私
にとって本当に大切な人たちだ。
今回の展示では、彼らの声に耳
を傾けたい。写真に映る彼らと
向き合いながら、いま一度、東日
本大震災と原発事故について考
え直したい。私たちはどこに向
かって進むべきなのか。その答
えはそこで暮らす、働く人々の
言葉の中に必ずある。

会 期 2013年11月8日(金)
ー11月17日(日)
11:00ー17:00
*9日(土)のみ14:00まで

場 所 Gallery繭蔵
東京都青梅市西分町3-127
JR青梅線青梅駅または
東青梅駅より徒歩10分

共同企画 Dining&Gallery繭蔵
×NPO法人ポラン広場東京

小原一真(おばら かずま)
1985年、岩手県に生まれる。KEY-
STONE(スイス)。宇都宮大学国際学
部にて社会学を専攻。金融機関で働
く傍ら、DAYS JAPANフォトジャーナ
リスト学校にて学ぶ。東日本大震災
直後に会社を退職、3月16日から現
地での取材を開始。2011年8月に行
った福島第一原発での取材はヨー
ロッパ各国の新聞、テレビに掲載さ
れた。2012年 3月10日、スイスのラ
ースミュラーパブリッシャーズより、
東日本大震災、福島第一原発事故の
取材をまとめた「Reset Beyond Fu-
kushimaー福島を越えて」を出版。
<http://kazumaobara.com/>

【お問合せ・ご予約】
Dining&Gallery繭蔵
<http://www.mayugura.com/>
Tel 0428-21-7291

賛助会員の拡大にご協力をお願いします！

●ポラン広場東京は、2011年施
行の「新寄付税制」と2012年4月
施行の「改正NPO法」に基づき、「認
定NPO法人」の取得を目指してい
ます。●認定NPO法人への寄付に
は、寄付者への所得税・住民税控
除、会社等法人への損金算入枠
拡大などの税制優遇措置が設け
られました。この「新寄付税制」
を活用し、補助金助成金と自主
事業収入中心の不安定な資金調

達から、会費・寄付金収入を主な
資金とする法人運営へと発展さ
せる事がねらいです。●認定取
得の主な要件は「年平均100名以
上の寄付者がいること」です。賛
助会員の年会費(5千円)は寄付
金とみなされるので、賛助会員
100名以上で要件を満たします。
●ぜひともご家族、お友達など
にお声がけいただき、賛助会員
の会費拡大にご協力ください！

未来のオーガニックを 志向しよう

視点【その6】



オーガニックというのは、単に生
産様式に限定して使われることば
ではありません。それは食べる側か
ら見ると、様々な健康上の問題とつ
ながっているわけです。私たちは普段、
何をどのくらい、どのように食べるの
がいいのでしょうか？それは朝昼晩
の自律神経の状況でも違うし、食
べる人によっても違ってきます。オー
ガニックがおいしいといっても、一日
の必要量2400kcalの人が3000kcal
も食べればそれは毒になるでしょう。
それが見えたのが、とある有機
生産者の体型です。彼はかつては
少量多品種生産者で、地道にお金
をかけない、そんな暮らし向きの人
だったのに、今は身体ががたがた。

自給率も高く、良い環境にあるはず
の有機生産者が、生活習慣の乱れ
から健康を害していきました。農薬
と化学肥料で土壌と環境、そして
身体を蝕んでいった反省から始ま
ったオーガニックファーマーが、いっ
たいどうしたことだろう。

30数年流通をやっているけれど、
本当のオーガニックな暮らしをして
いる人って、まだまだ少ないように
思います。将来、我々はモノをつく
てるだけだった、流通してるだけだ
った、買ってるだけだった、と言わ
れるのかも知れないですね。

311もあって、社会が少しディープ
になって、気づく人が出てくる。その
時に我々は期待に応えられているか、
選ばれているか？ 市民社会という
言葉があるとすれば、その市民社
会が成熟したとき、選ばれる対象
であるように、わが身振り返ってど
うかと、日々の積み重ねをしていき
たいと思うのです。

事務局からのお知らせ

活動予定

- 11月9日(土)
さよなら原発 エネルギーシフトウ
ーキング(8) 羽村市～福生市
http://www.polano.org/11_netw
[orking/130413_walking.html](http://130413_walking.html)



決定! オーガニックショー
ポラン広場東京
2014

日程と会場が決まりました!

と き:2014年2月22日(土)
ところ:中野サンプラザ8階
オーガニックショー ポラン広場東京
2014を創る、あなたの企画・アイ
デア・リクエスト大募集中です!

活動短報

- 10月
- 5・6 東京ピクニック2013 in AUTUMN@中野セントラル
パーク 出店
 - 10 NPO法人TEAM二本松(福島県二本松市)「青空市場」
に義援物品をお届け
 - 12 さよなら原発 エネルギーシフトウーキング(7)
羽村市小作～羽村 開催
 - 20 NPO法人TEAM二本松(福島県二本松市)「青空市場」
に義援物品をお届け
 - 26・27 アースガーデン「秋」～ファーマーズガーデン
@代々木公園 企画・出店

じむきよく NOTE



最近、水に興味湧いてます。きつ
かけは、静岡のお茶農家、依田健太郎
さんのお宅で飲んだお茶のおいしさ。
依田さんが暮らす梅が島は、安倍川
の最上流、標高900メートルの山村で、
水源の山を管理して、天然の山の水
を塩素消毒せずに使っています。山
で育ったオーガニックのお茶を、同
じ山から湧き出した、汲みたてミネ

ラルウォーターでいただく。都会で
飲んでもおいしいお茶ですが、この
お水でいれたお茶は格別でした。詩
人の山尾三省さんは、遺言に「生まれ
故郷である東京・神田川の水を、もう
一度飲める水に再生したい」と遺し
たそうです。オーガニックがめざす
のはこういうことなのかと、そんな
気持ちで水をながめています。(竹内)

NPO法人ポラン広場東京 ネットワークニューズレター

11月号

2013年11月1日発行
(毎月1日発行)



特定非営利活動法人 ポラン広場東京
〒198-0052東京都青梅市長淵4-393-11
TEL:0428-22-6821 FAX:0428-25-1880
E-mail:office@polano.org